

最近の道内経済動向

- 道内景気は、持ち直しの動きがみられる。
- 先行きは持ち直し基調が続くと予想されるものの、原材料価格の上昇や家計負担の増加などから、改善のテンポは緩慢と予想される。

(注1) 基調判断は、2022.9.21時点で入手可能な主要経済指標を参考とした(7~8月実績が中心)。

(注2) 生産は鉱工業生産指数の公表延期に伴い掲載を見送りとした。

●個人消費は持ち直しの動きがみられる

7月の供給側の統計(商業動態統計など)をみると、百貨店(前年比+17.8%)やコンビニエンスストア(同+3.7%)などは増加となったものの、家電大型専門店(同▲11.8%)やホームセンター(同▲5.2%)は減少した。需要側の統計をみると、家計の消費支出額(7月の家計調査を基に算定)は同+5.4%と2ヵ月連続の増加となった。総じて個人消費は、人流の改善を背景に持ち直しの動きがみられる。

●観光は一部で厳しい状況が続くものの、持ち直しの兆しがみられる

外国人入国者数(8月)は2,242人。新千歳空港の国際線が再開したことを受けて底離れの動きがみられる。一方、7月の来道者数(国内交通機関経由)は約105万人(前年比+86.4%)と、9ヵ月連続で増加。コロナ前(19年7月)と比較して81.2%の水準まで回復した。インバウンドは厳しい状況が続くものの、新型コロナウイルスの影響が和らぐ中で道外客が増加するなど、持ち直しの兆しがみられる。

(注) 外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人数。来道者数とは、国内路線(航空、JR、フェリー)利用による旅客数(国内客と道外で入国手続きした外国人客)を指す。

●住宅建築は減少している、設備投資は持ち直しの動きがみられる、公共工事は下げ止まりの兆しがみられる

新設住宅着工戸数(7月)は、前年比+7.4%と8ヵ月ぶりの増加になった。利用関係別にみると、持家(同▲15.0%)は9ヵ月連続で減少した一方、分譲マンションで大規模着工があった分譲住宅(同+35.7%、うちマンション同+55.2%、戸建て同+22.6%)と貸家(同+17.9%)ともに2ヵ月連続の増加となった。北海道財務局が9月に公表した法人企業景気予測調査の設備投資計画によると、全産業で前年比+34.3%(前回調査差▲4.8%ポイント)、製造業同+43.1%(同+10.7%ポイント)、非製造業同+32.1%(同▲8.6%ポイント)と前年実績を上回る計画となっている。公共工事請負金額(8月)は、前年比▲8.6%(598.6億円)と2ヵ月ぶりの減少となった。発注機関別では、国(同+9.0%)が増加した一方、独立行政法人(同▲24.2%)や道(同▲6.1%)などが減少した。既発注分を含めた出来高ベースとなる公共工事出来高(7月)は、同+5.9%と2ヵ月連続で増加となり、下げ止まりの兆しがみられる。

●輸出は緩やかに持ち直している

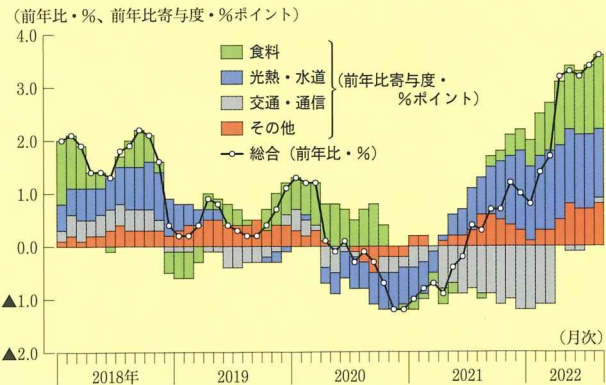
8月の通関輸出額(速報)は、前年比+75.8%(493億円)と4ヵ月連続で前年を上回った。品目別では、「魚介類及び同調製品」(同+8.6%)や「自動車の部分品」(同+26.7%)が全体をけん引した。地域別では、中国を筆頭にアジアの増加が目立った一方、北米、西欧などは減少した。

●雇用情勢は弱い動きがみられる

7月の有効求人倍率(パート含む常用)は、1.10倍(前年差0.11ポイント上昇)と10ヵ月連続で1倍を上回った。もっとも、有効求職者数は25ヵ月連続で増加が続くなど、雇用情勢は弱い動きとなっている。

道内の消費者物価(総合)の推移について

2022年8月の道内消費者物価指数(総合)は前年比+3.6%と高い伸びとなった。主な費目では「光熱・水道」や「食料」などの上昇が全体を押し上げた。先行き、①エネルギーや食糧をはじめとする商品市況の動向について不確実性が高い状態が続き、②最近時の為替相場が円安傾向となっていること、③原材料価格の変動が商品・サービス価格に反映されるまで一定程度遅れることなどが要因となり、消費者物価指数はさらに上昇する余地があるとみられる。



(出所) 総務省「消費者物価指数」より道銀地域総合研究所作成